

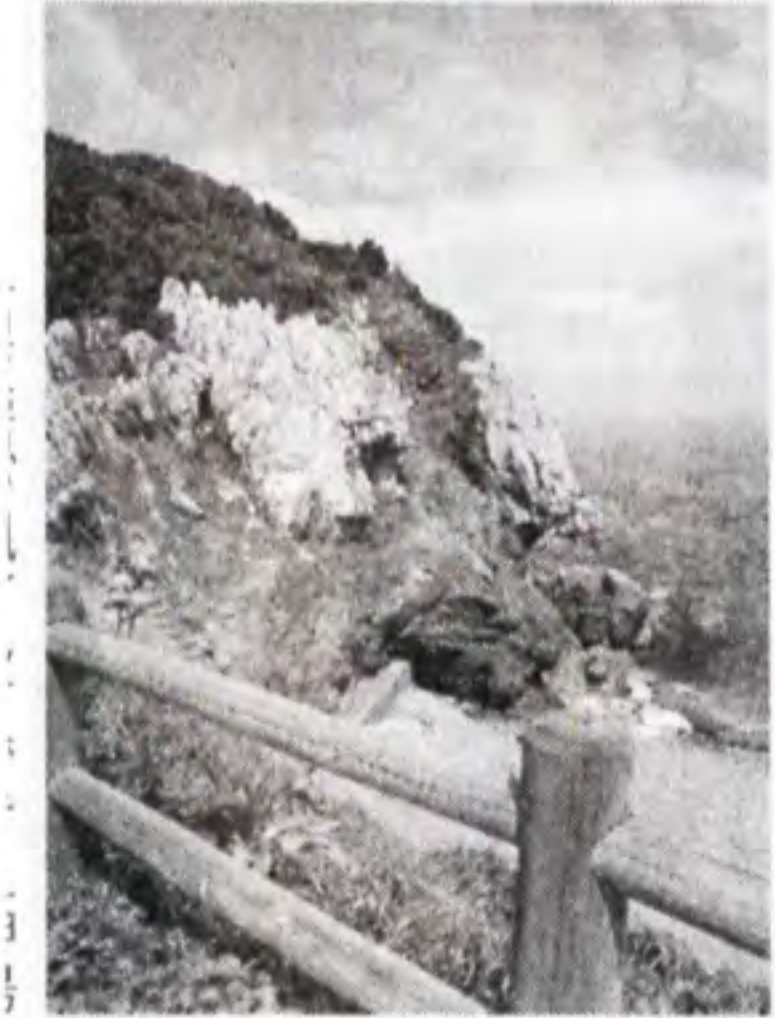


## 三重 鳥羽市

# たび

## 真珠と潮騒の島巡り 海女・水軍・「恋人の聖地」

三重県鳥羽市は志摩半島の北東端にあり、市全域が伊勢志摩国立公園に指定されている。自然景観が豊かなところ。息子に「夏の鳥羽にロマンを感じに行ってくるよ。美しい真珠と潮騒の島へ」と言うのと、「三島を読んでもないでしょ…」と。鳥羽の離島の一つには、三島由紀夫の「潮騒」に登場した神島があります。「潮騒」は映画化され、吉永小百



●ミキモト真珠島、海女の実演  
左ミキモト真珠島・養殖誕生85周年を記念してつくられた作品



合さんや山口百恵さんもロケに訪れました。文庫本を持ってでかけました。

まず、鳥羽駅の近くのミキモト真珠島へ。1893(明治26)年、御木本幸吉が世界で初めて養殖真珠に成功した島です。今は真珠博物館や御木本幸吉の資料館があります。博物館では真珠ができる仕組みや養殖方法、ネットワークができる工程などを係員の解説や映像、パネルで紹介しています。真珠を使った美術工芸品が展示され、美しさに見とれてしまいました。

昔ながらの白い磯着をまとった海女の実演も見学しました。昔、海女は真珠の養殖になくてはならないものでした。海底に潜って貝を採取し、核入れた貝を再び海底へ戻したといいます。海に潜った海女は浮き上がる時にヒュー、ヒューッと磯笛と呼ばれる呼吸をします。磯笛はどこかもの悲しさを感じる響

き、養殖技術が進んだ今、海女は必要なくなったそうです。

翌日、答志島と神島に渡りました。鳥羽港から北東約2・5キロ、伊勢湾最大の島が答志島です。戦国時代の鳥羽城主で、九鬼水軍の将だった、九鬼嘉隆の首塚や胴塚がありました。首は鳥羽城を望む築上山の山頂に息子・守隆によって葬られたそうです。

答志島から定期船20分ほどで神島に着きました。神島は「恋人の聖地」として有名になり、景色も素晴らしく、伊良湖岬がきれいに見えます。

小久保富美子さんが島を案内してくれました。三島が滞在していた寺田邸です。ここで「潮騒」を執筆し、川端康成に「ここには本当の人間の生活がありそうです」と手紙を送っています。八代神社と神島灯台は、三島が気に入って小説にも登場しています。

灯台から山道を20分ほど歩いて監的哨跡に着きました。戦時中、旧陸軍が伊良湖から撃つ大砲の試着弾を目標で確認した施設です。映画「潮騒」ではここで、新治と初江が気持ちを通い合わせる有名なシーンが撮影されました。階段や山道をかきながら歩いた気がしますが「島を一周しても一万歩ないんです」と小久保さん。カルスト地形を見学し帰る途中に何人も釣り人を見かけました。

旅の終わり、帰りの船で「潮騒」の続きを